

日本標準商品分類番号	87273
承認番号	14500AMZ00349000
保険適用	1970年3月
販売開始	1970年3月



根管消毒剤
 ※劇薬
 歯科用 **ホルマリンクレゾール**
 Dental **FORMALIN CRESOL**

貯 法：遮光・気密容器・
 室温保存
 使用期限：外箱等に記載

※※【禁忌】(次の患者には投与しないこと)
 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

※※【組成・性状】

1. 組成

	成分	100mL中の分量
有効成分	ホルマリン	40mL
	クレゾール	40mL
添加物	エタノール	

2. 製剤の性状

本剤は、無色～微赤色澄明な液で、そのガスは粘膜を刺激する。

【効能・効果】

根管の消毒

【用法・用量】

適量を根管内へ挿入し、仮封する。

※※【使用上の注意】

1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

患歯根端(尖)部に炎症性病巣のある患者 [症状が悪化するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

本剤は、組織刺激性が強く、歯根膜炎を起こすことがあるので、注意して使用すること。

3. 相互作用

併用注意 (併用に注意すること)

本剤を塩化鉄(Ⅲ)液、酸化クロム(VI)液、硝酸銀液等と併用する場合には、変色又は沈殿を生じ、薬効が減じるので注意すること。

4. 副作用

(1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー(頻度不明): ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、蕁麻疹、そう痒、呼吸困難、血圧低下等の異常が認められた場合には、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

過敏症 (頻度不明)

過敏症状が現れることがあるので、このような場合には、使用を中止し、適切な処置を行うこと。

5. 適用上の注意

(1) 軟組織に対し局所作用をあらわすおそれがあるので、口腔粘膜等に付着させないように配慮すること。したがって、使用に際しては、ラバーダム防湿等を行うこと。

(2) 本剤が口腔粘膜や皮膚等に付着した場合は、直ちに水洗さ

せること。本剤が皮膚等に付着したまま放置すると、炎症を起こし、化学的損傷を生じることがあるので、その場合は火傷の治療に準じて処置するか、皮膚科医に相談すること。

(3) 本剤は、歯科用にのみ使用すること。

【薬効薬理】

本剤は、ホルマリンにクレゾールを配合することにより、界面張力が低下し、腐敗分解産物に対する親和性が高まるとともに象牙細管にまで浸透し、ホルマリン特有の気化消毒作用¹⁻³⁾を示す。根管消毒剤の根尖創傷治療におよぼす影響を観察した実験において、蛋白凝固作用のあるホルマリンクレゾールは、根尖創面より浸出する創傷液との界面に凝固痂皮を形成し、この凝固層が保護層の役割をはたしているため、薬液は根尖周囲組織内へ浸透しない⁴⁾。

※※【有効成分に関する理化学的知見】

1. 一般名:ホルマリン

化学名:Formalin

分子式:CH₂O

分子量:30.03

構造式: $\text{H}-\overset{\text{H}}{\underset{\text{O}}{\text{C}}}=\text{O}$

性状:本品は、無色澄明の液で、そのガスは粘膜を刺激する。

本品は水またはエタノール(95)と混和する。

本品は、長く保存するとき、特に寒冷時に混濁することがある。

2. 一般名:クレゾール

化学名:Cresol

分子式:C₇H₈O

分子量:108.14

構造式: OH
 $\text{C}_6\text{H}_4-\text{CH}_3$

性状:本品は、無色または黄色～黄褐色澄明の液で、フェノールのようなにおいがある。

本品はエタノール(95)またはジエチルエーテルと混和する。

本品は水にやや溶けにくい。

本品は水酸化ナトリウム試液に溶ける。

本品の飽和水溶液はプロモクレゾールパープル試液に対して中性である。

本品は光を強く屈折させる。

本品は光により、また、長く放置するとき、暗褐色となる。

【取扱い上の注意】

1. 本剤は「劇薬」であるので、取扱いに注意し、他の物と区別して保管すること。
2. 使用後は密栓し、直射日光を避けて保管すること。
3. 眼に入った場合は、直ちに多量の水で15分以上洗い流し、なお異常を認める場合は眼科医に相談すること。
4. 衣服等についた場合は、においが残ったり、シミになったりすることがあるので、直ちに洗剤等で洗うこと。

【包装】

15mL

【主要文献】

- 1) 真泉平治:根管消毒薬の再検討,日本歯科評論,365,28~35(1973)
- 2) Hugh F.Treanor Jr.,et al.:Bactericidal efficiency of intracanal medications,Oral Surg.,33(5),791~796(1972)
- 3) 堀田敏雄:歯科用薬剤の気化消毒性に関する研究 -とくに最小発育阻止濃度について-,日歯保誌,23(1),57~63(1980)
- 4) 師岡道夫:根管消毒剤の根尖創傷治癒に及ぼす影響に関する実験的研究,口腔病学会雑誌,34(3),225~238(1967)

【文献請求先】

日本歯科薬品株式会社 お客様窓口
〒750-0015 山口県下関市西入江町2-5
☎0120-8020-96/FAX 083-222-2220
[ホームページ] <http://www.nishika.co.jp/>



製造販売元
日本歯科薬品株式会社
山口県下関市西入江町2-5